

報道各位

TOKYO FM 開局 45 周年記念式典挨拶
(代表取締役社長 千代 勝美)
～2015年4月24日(金) 午前10時30分 TOKYO FM ホール～

株式会社エフエム東京は、2015年4月24日(金)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM 開局 45 周年記念式典を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。

(開局記念日は4月26日ですが、本年度は休日にあたるため、2日早く4月24日に実施致しました)

◇代表取締役社長・千代 勝美 あいさつ◇

明後日26日には節目の開局45周年を迎えます。

開局記念日を祝うことの意義は、改めて原点に戻り、ゼロから苦難の道を切り開いていただいた諸先輩方や、ご協力・ご支援いただいた全ての皆様へ深く感謝すると共に、自らの立ち位置を再確認し、これからの未来のビジョンを思い描くことにあると思います。

当社の原点は、新たなるものへ進取の精神と、たゆまぬ開発精神、そして不屈なチャレンジのくりかえしであります。

1958年、実験局として東海大学代々木校舎からわずか1KWの出力でスタートしたFM放送が我々の原点ですが、1960年代の実用化試験局「FM東海」を経て、1970年の4月26日に当社は開局した訳であります。

1970年代はFM大阪、FM愛知、FM福岡と4局で10年、FM放送のポジショニング創りに取り組みました。メディアが自らのポジショニングを高めていくには、強い使命感と、大いなる夢をもたなければなりません。黎明期の諸先輩方の想いを我々は脈々と受け継いでいきたいと思えます。

80年代は多局化の時代を迎え、81年にJFNが発足、全国で開局ラッシュが始まり、現在の「JFNネットワーク」の形成期に入ります。

1990年にステーションネームをFM東京から「TOKYO FM」に変更し、「感動を提供し、共感を得る」と企業理念を定め、ステーションキャンペーン「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ」を打ち出しました。その様な中、新たなチャレンジとして、95年に「見えるラジオ」、97年には「D-GPS」を開始し、データ放送の先駆的ビジネスを実現するなど、現在のマルチメディア放送の原点を生み出すわけであります。

しかし、インターネットの出現が、メディアの構造変革を起こしました。それまではマスメディアが送り手であり、生活者は受け手でありました。インターネットは誰もが送り手であり受け手である世界を創り出したのであります。2000年代に入り、IT化が急速に進展する中、2003年にデジタルラジオの実用化試験放送を開始しました。そこから紆余曲折を経て10余年、今まさに、V-Lowマルチメディア放送にようやく辿り着こうとしています。

当社グループは45周年を機に、新しいメディア・ポジショニングを創り出して行かなければなりません。開局当時、FM放送はステレオ・高音質が聴けることで支持を得ました。V-Lowマルチメディア放送では、ハイレゾ級・超高音質放送が可能だけでなく、IPDCによりデジタルデータであれば何でも送ることが出来ます。今日(こんにち)、45年前と同じように、ゼロから新たな放送を立ち上げようというわけですから、不思議な縁を感じます。従来とは違った、他に比類ない独自の考え方や発想で、新たなサービス開発に取り組んでいきたいと思えます。

当社は常に開発とチャレンジの歴史であります。良い時も悪い時も、必ず堂々と真正面から向き合い乗り越えてきた45年です。この諸先輩方が創り上げられた伝統を守るだけでなく、次は我々が次世代へ向けた新しい伝統を創り出すこそが我々の使命です。

どうぞ、ひとりひとりが自由な心と自由な発想で、放送新時代の主役として、新しい放送文化を創り出すことへ、この開局記念日にあたり、心を新たに、皆さんと共に歩むことを切望して、挨拶とさせていただきます。

以上